

八重山諸島に蝶を訪ねて

八 木 弘

蝶の楽園といわれる沖縄は、蝶愛好家の一度は訪ねて見たいところである。

蝶採集は、4月下旬から、5月中旬にかけて、亦、9月から10月の台風シーズンの合間をぬって最高の季節となるときく。

4月下旬から5月の連休にかけては、新婚旅行と団体観光のシーズンと重なり、旅行社も、新婚と団体客優先で、この好季節の一般客は、航空券の入手は困難である。

私も2、3度試みたが、望みを達する事が出来なかった。

特に、沖縄本島から←離島間の←南西航空は、住民の足としての利用も多く、此の好季の航空券入手は、ままならぬ様である。

今度蝶友S氏の努力により、長年の望みを達する機会を得た。

1980年4月28日から→5月5日までの予定で、大阪空港より、S氏夫妻と共に、全日空沖縄行き103便に夢を乗せて一路憧れの沖縄へ!!

南 国 沖 縄

私の夢を乗せた103便は、正午頃つつがなく那覇空港に着く。

石垣島への南西航空の便は、16時過ぎの搭乗券である。

3時間余の待合を利用し、近くを車でひと巡りする。守禮之門での記念撮影。弁財天堂、円覚寺跡など史跡を訪ね、海軍慰霊塔参拝とひと時の観光気分を味わう。

石垣島に着いたのは、17時過ぎとなり、西表島への船便は、すでに終便である。石垣港近くの宮平観光ホテルで一夜を過ごす。

翌29日、始発8時40分の高速船で、西表島に向う。途中、黒島に寄港する。棧橋周辺を種名はさだかでないが、アゲハ、タテハと思はしき蝶数種がとび交っている。

黒島は、石垣島と→西表島のほぼ中間に浮ぶ周囲、10km程の山もない、平べたい小島であるが、案外多種

の蝶が棲息しているように感じられる。

棧橋を離れた艇は、目指す大原港に向けて白波をけ立て突き進む。30分もすると大原港に着く。

港まで宿の主人が、マイクロバスで出迎えてくれる。大原港は西表島第2の大河仲間川の河口である。港の道路わきに、左豊原2km←右大富1kmの道標が立っている。

車は右大富に向う。すぐ仲間川に出る。橋を渡るともうそこが大富部落である。

私達の宿は、大富部落の竹盛旅館である。車なら港から3〜4分のところである。

車を降りると、蝶は何如にと早速辺りを見廻す。宿向いの民家の、生垣に植えられた真赤な一重、八重に黄色を交えたハイビスカスが色鮮かに咲き乱れ、あたかも、ツバベニチョウが吸蜜し、花にたわむれる、の風情であるが…現実にはそこに蝶の姿を見る事はできない。

蝶といえば、宿の自家菜園と思はしき、キャベツ畑に、数頭のモンシロチョウがたわむれているぐらいだ。

西表島に着けば、そこに無数の蝶が見られるとの期待が打ちひしがれる。あらためて、どの辺りに蝶は棲息しているのか?。思案しながら辺りを見廻していると、どこからともなく、1頭のオオゴマダラが、頭上高く、ふわりふわりと通り過ぎるのを目撃。オオゴマダラだと思わず叫ぶ。

急に元気づき、荷物をかゝえて宿に飛び込み、旅装を解くのもどかしく、ネットを持って飛び出す始末だ。

宿の周辺を駆けめぐり、タテハモドキ、カバネグライシガケチョウ、ヒメアカタテハ等、数種を得てようやく落着きを取りもどす。

近くにあると言うので、宿の女将に頼んでおいたレンタカーが届いたので、古見方面へ、亦豊原方面へと車を走らせ、本格的な採集行脚の旅が始まる。

八重山での1週間は、俗世の事は一切忘れ、雨にもめげず、只ひたすら自然の中に身をゆだね、蝶との出会いに限りなき喜びを感じる日々をおくる。

採集の成果は次の表の通りである。

採 集 表

島 名		西 表 島											石 垣 島					計
月 日		4/29			4/30		5/1		5/2		5/3		5/3	5/4		5/5		
種 名	採 集 地	大富 部落	古見 部落	豊原 部落	大富 部落	古見 部落	大富 部落	豊原 部落	カン ピラー	千立 部落	大富 部落	大富 部落	豊原 部落	オモト 岳	川平 部落	バンナ ー岳	オモト 岳	川平 部落
1	メスアカムラサキ			3														3
2	タテハモドキ	4	7	7	6	1	2	2	1	5	1						1	37
3	アカタテハ																1	1
4	ルリタテハ																	2
5	リュウキュウミスジ	5		1	4		4	2				5					1	22
6	ヤエヤマイチモンジ												2				1	3
7	イシガケチョウ	2	1	1		3	1	2		1				2	3	4	1	21
8	ツマグロヒョウモン								2							1		3
9	オオゴマダラ	1	2	1			1											5
10	カバマダラ	1						1		11	1				4			18
11	リュウキュウアサギマダラ	1	1		1		1			1				3	2	5	1	18
12	スジグロカバマダラ			3	11		12	12		1			7	5	1	5		61
13	カラスアゲハ		4											2	1	1	2	6
14	ジャコウアゲハ													1	1	2	4	9
15	クロアゲハ				1	1				1				1		1	4	9
16	ミカドアゲハ								1					1				2
17	アオスジアゲハ								2								1	3
18	アゲハチョウ	1			1					1						1		4
19	シロオビアゲハ						1								5	1		12
20	ベニモンアゲハ												1					1
21	ツマベニチョウ													2				2
22	ウラナミシロチョウ	1		1										1	15		5	23
23	カワカミシロチョウ					1		5					4					10
24	ナミエシロチョウ																1	1
25	モンキチョウ	1																1
26	タイワンギチョウ													1				1
27	ギチョウ				1								2				1	4
28	モンシロチョウ				1									1				2
29	ヒメアカタテハ	2			1									1				4
30	アマミウラナミシジミ													2			10	12
31	ヒメウラナミシジミ							6										6
32	リュウキュウウラボシシジミ								1									1
33	ウラギンシジミ				1		2					2						5
34	タイワンクロボシシジミ	1																1
35	ヤマトシジミ							2	2									4
36	タイワンアオバセセリ							1										1
37	ネッタイアカセセリ						3											3
38	オオシロモンセセリ							3										3
39	クロセセリ						1	3										4
40	オキナワビロードセセリ	1															1	2
41	テツイロビロウドセセリ									1								1
42	ユウレイセセリ							1			2				1			4
43	ウスイロコノマチョウ				1			1		1								3
44	マサキウラナミジャノメ		2		13		10		1	4						5		35
45	ヒメジャノメ				6		13	3			3	1	1					27
計		21	17	17	48	6	51	44	8	29	7	8	15	23	32	24	20	30
計		55			54		95		44			46		76			30	400

前記採集表の科のまとめ

セセリチョウ科	7種	アゲハチョウ科	8種
シロチョウ科	8種	シジミチョウ科	6種
マダラチョウ科	4種	タテハチョウ科	9種
ジャノメチョウ科	3種		
	計45種	以上	

上記蝶の分布について

もとより短日時の採集であり、八重山全島の蝶分布など到底知る由もないが、今回採集地の範囲に於ての体験から感じられた数種について記す。

1) スジグロカバマダラ。タテハモドキ。イシガケチョウ。

分布は広く個体数も多い。採集も容易である。但しイシガケチョウは高木に止る事が多いので3m程の竿が必要だ。

2) リュウキュウアサギマダラ。

分布は広いが西表島では個体数はまばらである。石垣島バンナ岳山麓ではかなり見られた。

3) カバマダラ。オオゴマダラ。

分布は広いが全般に数は少ない様だ。カバマダラは千立に。オオゴマダラは古見周辺でかなり見られた。

4) シロオビアゲハ

西表島では少ない様だ。石垣島では普通に見られ、特に川平に多い。

5) ウラナミシロチョウ。ナミエシロチョウ。

西表島では少ない様だ。石垣島川平に多い。両種は住み分けている様だ。

6) カワカミシロチョウ。

発生は局部的である様見うけられた。個体数も多い。西表島豊原、石垣島川平には棲息している。

7) メスアカムラサキ。

発生は局部的で個体数も少ない。豊原には棲息している。

8) ヤエヤマイチモンジ。

分布はさだかでないが、オモト岳、バンナ岳には棲息している。

9) リュウキュウミスジ。マサキウラナミジャノメ。ヒメジャノメ。

分布はかなり広い様だ。特に西表島大富部落周辺に多く見られた。

10) クロセセリ。オオシロモンセセリ。

分布はさだかでないが、西表島豊原には棲息している。

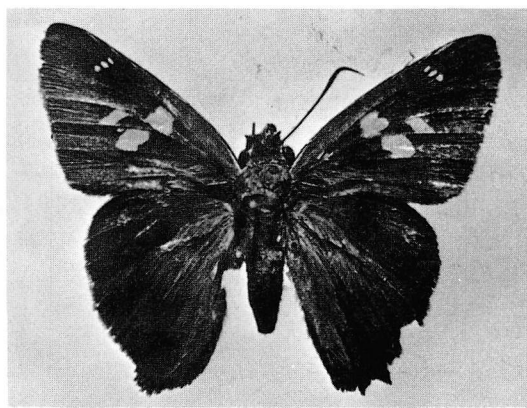
11) ベニモン。カラス。クロ。ジャコウアゲハ。

ベニモンアゲハは個体数は少ない。其の他は分布広く普通に見られる。

其の他の蝶については、犬も歩けばで……足で精神的に行動すれば採集出来る。

12) テツイロビロウドセセリ

西表島千立部落で採集したが、これ以外には見られなかった。



想い出のひとつ

5月2日、西表島最大の川浦内川河口にかかる浦内橋の袂から観光ボートで、マリユウドウ。カンピラー滝の探勝に出かける。乗船客はS氏夫妻と私の外は7~8組の新婚カップルだ。新婚カップルに囲まれてしばしの観光気分ひたる。

両岸には熱帯、亜熱帯樹が生い茂り、川面に影を落とし、新しく架け替えられた浦内橋の赤く塗れた橋げた純白の欄干が青く澄み渡る川面に映え、ひときわ鮮やかだ。

ボートはこの清流を白波を立てながら、兩岸の眺めを刻々と変えながら、中流にある軍艦岩まで遡上する。舟着き場に近づくと、桟橋周辺の岸べに、ミカドアゲハか？アオスジアゲハか？さだかでないが、飛び交っている。

蝶の姿を見ると、もう辺りの景色など眺めるゆとりなどなく、ただ蝶の姿を追ひ求める始末である。

ボートの発着は定期的でなく、客の都合に合せるらしく帰りは何時にするかと船頭が聞く。乗客全員の合議で12時発と決る。時計を見ると12時迄には2時間程だ。カンピラー滝まで徒歩で40～50分と聞く。

飛んでいる蝶も気になるが、折角ここまで来たのだからと、カンピラー滝まで急ぎ登る事にする。

新婚カップルの足元は、サンダルやハイヒールが多い。あんな恰好で登れるのかと、他人ごとながら気になる。

蝶や何如にと辺りを見廻しながら登って行く。晴ていたのが、いつの間にか雲がかかり、山合はうす暗く蝶の姿はあまり見当らない。25分程登った頃、マリユウドウ滝に出会う。幅20m程の瀑布だ。周辺でクロアゲハ、シジミ蝶を見かける。さらに15分行くとカンピラー滝につく。滝と言うより幅広く流れる激流と言う感じだ。飛沫が川面を白くただよっている。

新婚カップルは、あたりの岩場に腰をおろしにやらむつまじげに語り合っている。

記念に写真を2～3枚とると、もう辺りの景観より蝶の方に気が行く。

下山しながら採集と、早々と滝を後にする。天候悪く蝶に出会はないま、マリユウドウ滝まで下つて来ると、リュウキュウアサギマダラがふわりと飛び出し、ようやく1頭をものにする。空模様のよいよあやしくついに雨がぱらつき始める。

採集をあきらめ、急ぎ舟着場へと引かえすと、幸いにも雨があがり、薄日が差し始める。

しばらくすると、崖上の茂みから、ミカドアゲハとアオスジアゲハが舞い降て来る。蝶道と思はしき場所を選び採集を試みる。幾度かの失敗を重ねながら、どうにかミカドアゲハとアオスジアゲハを1頭づつものにした頃には、後から引揚げて来た新婚カップルはすでに乗船し出舟を待っている。もうこれまでと、あきらめネットをたたみ、船に乗りうつると、別れをおしむかの様に1頭の蝶が舳と、桟橋の間をくるくると舞い始める。しばらく眺めていたが、一向に飛び去ろうとしない。もう我慢ならず今しまったばかりのネットを取り出し、なりふりかまわず一振すれど、ボートのゆれに、足をとられ失敗。そのまゝ飛び去ると思ひし

や、また舞いもどつて来る。今度こそはと、精こんこめネットを振る。今度はうまくネットイン、瞬間新婚カップルから一斉の拍手がわき起る。ミカドアゲハと思ひしや、アオスジアゲハで残念!!

想い出を乗せて、艇はエンジンの音をひびかせながら川面を下る。

あとがき

八重山での採集は、今回初めてであり、唯暗雲の採集行となったが、沖縄土着70余種中45種を得る事が出来、まずまずの成果と思う。

今回採集出来なかった蝶にポイントをしばらく、季節を変えもう一度訪ねてみたい。出来得れば与那国島まで足を伸してみたいと思う。

HIROSHI YAGI 〒678 相生市

沖縄県産ナガサキアゲハ若令幼虫

の耐寒性について

広畑政己

1979年11月27日に沖縄本島伊豆味に於て本種の♀を採集し、自宅(姫路市)に持ち帰り、鉢植のレモンで採卵を行った。

母蝶は11月29日～12月1日の間に約50卵程産卵し、その卵は12月中旬に孵化し、12月下旬には2令幼虫となった。

12月末になると気温の方は日ごとに下がり、室内でも10℃以下になる日もあるので、ダンボール箱の中に幼虫のついたレモンの鉢植を入れ、裸電球を点し、暖房を行ったが、低温を補い切れず、気温が8℃以下になると幼虫が葉から落下するようになった。

しかし、7℃～8℃の温度で葉から落下した幼虫は、温度を上げると回復するが、この時期の室外の冷氣に数分でも触れると体液を吐き死んでしまう。

気象年鑑1980年版によれば、1980年1月～2月の那覇市に於ける最低気温の極値は10.3℃なので、気温だけから判断すると幼虫でも越冬できそうであるが、この度のように初冬に発生したナガサキアゲハの次の世代のその後の経過が興味深い。

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市